

基本理念

北東北を代表する流通拠点として…

組合員企業の発展と相互連携により北東北を代表する流通拠点を構築するとともに地域社会の繁栄に貢献していきます。

指 針

協同組合八戸総合卸センターは、相互扶助の精神に基づき、組合員企業のさらなる発展と企業価値の向上を目指してまいります。

さらに、組合員企業の相互連携により、「人・物・金・情報」が集積する「北東北を代表する流通拠点」を構築していきます。

同時に、地域の活力ある産業経済と豊かな消費生活を支える「企業コミュニティー」としての使命と役割を担い、周辺地区のまちづくり・環境推進等、地域社会の繁栄に貢献し、今後、八戸総合卸センター並びに組合員企業が、地域社会にとって必要とされる存在であり続けます。

未来への
ビジョン

私たち協同組合八戸総合卸センターは

社会の変化に対応し、組合員が持続的に成長し、
夢をもって未来に挑戦できる環境づくりを進めます。

スローガン

【環境づくりのための2つの視点】

共益
ささえる

公益
つなげる

【具体的な行動計画】

1 事業活性化

- 1 展示・会議施設の刷新
組合員と取引先との関係強化、新規販路開拓
- 2 タイムリーな情報提供
自治体、外部支援機関、専門家との連携強化
- 3 未来への設備投資をサポート
高度化資金・助成金等の活用支援
- 4 価値ある共同事業の推進
組合員のニーズに基づく継続的な見直し

2 人材確保と育成

- 1 採用に関する情報収集・情報提供
教育機関、採用支援機関等との連携強化
- 2 未来を担う人材の育成
組合および外部の研修・講習機会の提供
- 3 子育てしながら働ける環境づくり
団地内保育園の整備
- 4 交流機会、福利厚生充実
社員満足度を高めるためのサポート

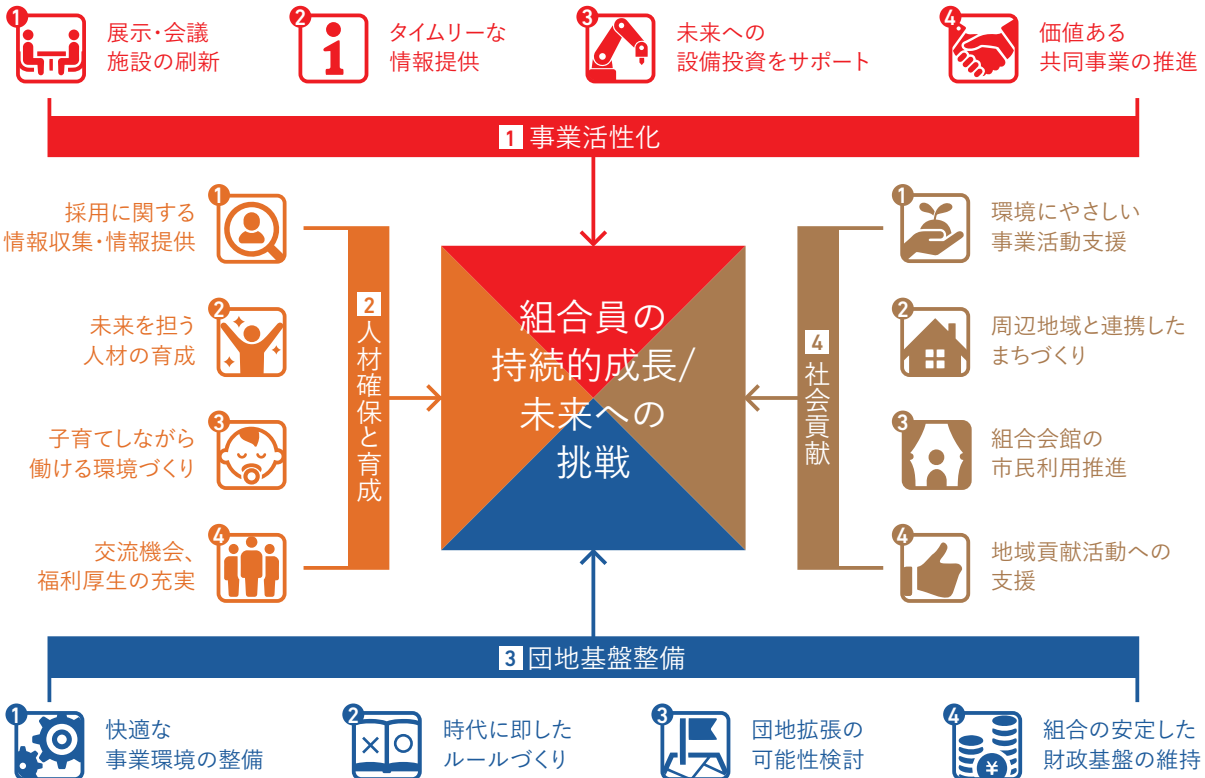
3 団地基盤整備

- 1 快適な事業環境の整備
安心・安全できれいな環境づくり
- 2 時代に即したルールづくり
規定、規約等の継続的な見直し
- 3 団地拡張の可能性検討
将来の事業拡大に対応できる環境づくり
- 4 組合の安定した財政基盤の維持
事務局体制の強化、理念の継承

4 社会貢献

- 1 環境にやさしい事業活動支援
3Rの推進、PR活動
- 2 周辺地域と連携したまちづくり
交通安全、清掃活動、防災訓練等
- 3 組合会館の市民利用推進
会館リニューアルPR、活用支援
- 4 地域貢献活動への支援
地域の団体等への支援

行動計画のイメージ図



座談会

地域とつながり
未来へ



橋本 博文
副理事長

川崎 益美
理事長

森山 慶一
副理事長
兼専務理事

八戸総合卸センターは創立50周年を記念し、川崎益美理事長、橋本博文副理事長、森山慶一副理事長兼専務理事による座談会を開催しました。これまでの協同組合としての歩みを振り返りながら、今年新たに打ち出した「未来へのスローガン」について語り合いました。



— 創立から50年の歴史の中で、大切にしてきた理念などについてお話しください。

川崎 もともと八戸市中心街に点在していた卸売業者が、昭和40年代に車の渋滞と交通規制の影響で営業が難しくなり、集団で移転したというのが卸センターの成り立ちです。

森山 用地の取得から造成工事までの全てを、組合員企業と役職員で進めたわけですが、当初から協力し合う気持ちは強かったのだと思います。

橋本 長く営業を続けてきた場所を離れて移転するのは、相当の覚悟が必要だろうと想像できません。ただ、立地が一度決まったら一致団結して成功させようとする姿勢には、八戸人らしい気質も感じます。

川崎 卸センターは創立以来、相互扶助の精神に基づき、組合員のための事業を展開してきました。昭和50年代以降の情報化時代に対応した共同配送事業などを、軌道に乗せるまでには多くの苦労がありましたが、組合員の結束の強さで乗り越えてきました。

— 未来へのスローガンでは、「ささえる」「つなげる」という二つの視点を掲げました。

川崎 まず「ささえる」についてお話しすると、組合員への貢献、「共益」をさらに充実させるという意味です。今年9月、企業主導型の「HOC こどもの森保育園」を卸団地に開設したのも、その一環です。各企業にとって人材の確保が課題となる中で、従業員が子育てをしながら勤めやすい環境を整える狙いがあります。

橋本 企業が集まるエリア内に、



保育園という生活に身近な施設が誕生したのは、卸センターがより地域に開かれた存在に変わっていく象徴的な出来事のように感じます。

森山 保育園もそうですが、組合員からの要望を聞き、それに対応した事業を展開するのが卸センターの役割です。この他、今後の大きな課題の一つが卸団地の拡張です。過去二度にわたり実施しましたが、今も事業を拡大したい組合員や新規加入を望む企業のニーズがあることを踏まえ、さらなる拡張について検討を進めます。

—未来へのスローガンの「つなげる」という、もう一つの視点はどんなものですか。

川崎 社会全体の「公益」のために貢献するという意味です。今までも周辺の企業、団体と連携しながら取り組んできました。

森山 卸団地の道路清掃や花壇の整備、交通安全など、活動内容は実にさまざまです。

橋本 2013年に市道長苗代卸団地線が開通したことで、卸団地への交通アクセスが大幅に改善されました。その流れに乗って、卸セ

ンターの存在を市民にもっと浸透させることが大事だと感じます。来年にリニューアルオープンする組合会館別館の展示場は、一般の方にも広く利用していただき、地域とつながる拠点になればいいなと思います。

川崎 地域経済を取り巻く環境が厳しさを増す中で、今後も卸センターは流通拠点としての使命を果たさなければいけません。そのために、組合員各社が健全経営を続けることが重要です。協同組合として、全力でサポートに努めていきます。

企業主導型保育所

「HOC こどもの森保育園」

開園 (2019年9月)

01



仕事と家庭の両立サポート

木のぬくもりが感じられる建物に、柔らかな光が差し込む。子どもたちの無邪気な声が響く一。

八戸総合卸センターは9月1日、組合員企業の従業員向けに「HOC こどもの森保育園」を開設しました。女性従業員が出産後も安心して働くことができる環境を整え、仕事と家庭の両立をサポートする狙いです。

八戸市内で3番目の企業主導型保育所として、卸センター敷地内に設置しました。「育休後に子どもを預けられる環境がなく、思うように職場復帰できない」という従業員の声が寄せられるなど、保育施設のニーズの高まりに対応したものです。

運営は学校法人鳳明学園(田頭初美理事長)

に委託しました。定員は0～2歳児の計19人で、組合員をはじめ近隣の八食センターや市中央卸売市場の従業員が利用できる「共同利用枠」と、一般の方も利用できる「地域枠」を設けています。

「病後児保育」の専用スペースも設置。園児以外でも、地域の1歳から小学6年生までであれば、病気やけがの回復期に預けられます。

保育園の利用時間は月～土曜日の午前7時30分～午後6時30分。将来的には日曜や夜間の保育も検討し、利便性の向上を目指します。

組合員企業から募って決定した園名には、子どもたちに「森のように、元気にすくすくと育てほしい」という願いが込められています。

INTERVIEW01



運営
受託

学校法人 鳳明学園
理事長 田頭 初美

女性が働きやすい環境をつくるということは、保育に携わる者のこれからの使命だと考えています。同時に、子どもが幸せに過ごせる場所は親の近くにあっていいという思いもあり、運営をお引き受けしました。

保育園ができ、子どもがいる風景がここで見られるようになったことを、地域の皆さまにも幸せとじてもらえたらうれしいです。子どもたちには助け合い、笑い合っ、「共生社会」を感じながら成長して欲しいと思っています。

子どもの大切な命を預かっているということを第一義として、これからも職員と歩んでまいります。



メインの部屋。仕切りを利用すれば、「乳児室」「ほふく室」「保育室」と園児の年齢に合わせて空間を区切ることができる



玄関につながるホール(奥)と遊戯室(手前)



病後児保育の専用スペース

INTERVIEW02



利用者
の声

青森三菱電機機器販売株式会社 八戸支店
林 孝勇さん(29) / 奏多くん(1) / 菜々美さん(29)

孝勇さん 卸センター内に勤務しているので、入社、退社時に送り迎えできるのがうれしいです。小さい子は体調を崩すことも多いので、同じ敷地内にいると思うと安心感があります。

菜々美さん 夫が子どもの近くにいる、何かあったらすぐに迎えに行けるのはありがたいです。新築の建物がとてもすてきだと感じています。

組合会館別館リニューアル

(2020年7月予定)

02



組合会館別館(左)の完成イメージ



別館東側に増築される屋外展示場(手前)の完成イメージ

屋外部分を新設 集客力向上に期待

八戸総合卸センターの組合会館別館は、2020年7月にリニューアルオープンを計画しています。現在の建物は老朽化が進み、組合員企業から利便性の向上を求める声が上がっていました。これを踏まえ、展示場は、屋内の設備機器を一新するほか、雨風に対応した屋外展示場を増築します。従来の用途は、組合員企業による展示会や会議などが中心でしたが、改修後は一般向けの貸し出しが増えることが見込まれます。集客力の向上と、地域振興につながる効果が期待されます。

今回の改修により、鉄筋コンクリート造り2階建ての組合会館全体の建物面積を、現状の2,485㎡から3,045㎡に拡張します。展示場の屋内部分(680㎡)は音の反響を最小限に抑えるため、天井に吸音板を設置し、壁も

変更します。大型スクリーンとプロジェクターを備え、大規模な会議や講習会にも対応できます。

展示場の周辺には、調理室と、控え室としても使えるミーティングルームを併設。その他、エレベーターも新たに導入します。

新設する屋外展示場(462㎡)は屋根付きのため、天候に左右されずにイベントを開催できます。大型の展示物を運び入れられるほか、展示会の来客に軽食などを振る舞うケータリングの場としても活用できます。

地域の人たちにとっても、例えば屋内の展示場で音楽イベントを企画するなど、アイデア次第でさまざまな利用が可能に。より親しみを感じられる場所になりそうです。